

- 2) 瘦果は断面不同レンズ形。
- 3) 莖は硬く細く圓柱形。花序の上部の苞は長し。小穂は多くは綠色。銳頭。鱗片は卵形。瘦果の剛毛は明かに瘦果よりも長し。本州。四國。朝鮮。台灣
Scirpus Sasakii HAYATA. ————— タイワンヤマキ
- 3) 莖は稍太く數條の稜線あり。花序の上部の苞は比較的短かし。小穂は多くは淡褐色を帯び鈍頭又は稍銳頭。鱗片は廣卵形。瘦果の剛毛は瘦果よりも少しく長く乃至僅かに短かし。本州。四國。九州。朝鮮。琉球。台灣。(フトコキ?) *Scirpus lateralis* RETZ. ————— イヌホタルキ

菊科植物雜錄 II

北村四郎

本誌第一卷二百六十四頁—二百六十六頁にかけて我が國への輸入植物を記述したが更にこれに次いで記録する。

8) *Crepis tectorum* L. Sp. Pl. (1753) p. 807 ; REICHENBACH, Ic. Fl. Germ. XIX. tab 1452 II ; HEGI, Fl. Mittel-Europa VI2 p. 1165 fig. 843 ; BONNIER, Fl. compl. Fr. Suiss. Belg. VI p. 91 Pl. 359 fig. 1714 ; HULTÉN ; Fl. Kamtchatka IV (1930) p. 232 ; KOMAROV, Fl. Man. III. (1907) p. 786.

Nom. Jap. YANE-TABIRAKO n. n.

Hab. Sachalin. Toyohara (1 Sept. 1931 S. OTAGIRI) ibiden (1 Aug. 1927 S. SUGIWARA).

原産地は歐洲。滿洲のもカムチャツカのも移入者らしいと云はれてゐる。樺太のも私は移入者と考へる。和名は屋根タビラコの意である。

9) *Xanthium spinosum* L. l. c. p. 987 ; REICHENBACH, l. c. XIX t. 1575 ; HEGI, l. c. VII 502 ; BONNIER l. c. VII p. 29 Pl. 372 fig. 1759 BRITTON & BROWN III. Flora Northern States and Canada III ed II. p. 344 fig. 4132.

世界的に廣く移入された今日、どこから來たのか不明である。アメリカの學者はメヂア、ヨーロッパが原産と云ふ、家畜が喜んでこの植物全體を食ふし、古ローマ人は頭髮を染めるにこの植物を使用したと云ふ。尙近代この植物から黄色の染料を工業的に取つてゐた。佛名では Lampourde épineuse, 獨名は Dornige-Spitzklette, 英名は

Bathurst-burr, 伊名は *Lappola*, 日本名はトゲオナモミ。吉野善介氏が大阪市十三、武田製薬工場の空地に自生したのを採集されたので鑑定したが将来どんどん繁殖するかもしれない。

10) *Galinsoga parviflora* CAVANILLES, KITAM, in Acta. Phytotax. Geobot. I (1932) p. 265.

小生は一昨年これにコゴメギクなる和名をつけたが、小石川植物園には古くから移入されてゐて牧野博士はハキダメギクといふ名稱を與へられてゐたと中井先生より昨年拜聞した。京都育ちの拙者は全く知らなかつたので残念な事をしたものである。尙この草は其の後御旅屋太作氏に依り越中東礪波郡出町小學校前に採集され吉永虎馬氏、大久保一治氏に依り高知市に採集された。

11) *Bidens frondosa* L. Sp. Pl. (1753) p. 832 ; BRITTON & BROWN l. c. p. 497 fig. 4511.

アメリカセンダングサの和名で數年來呼ばれてゐる植物で本名は中井先生の與へられたものらしい。小生が中學生の頃、郷里近江堅田の琵琶湖岸にこれが澤山生育してゐて種名が不明だつた、十年程前の話である。關西には大變多く京都、大津、宇治、愛宕山、尙、坂口氏は紀伊貴志村に採集された。

12) *Lactuca pulchella* DC., Prodr. VII (1838) p. 134 , BRITTON and BROWN , Ill. Fl. Northern States and Canada ed. 2 III (1913) p. 320 f. 4075.

Nom. Jap. AMERIKA-NIGANA.

Hab. Manshuria : Ryojun, Seashore (16 Jul. J. SATO n. 1065)

北米原産のこの草が旅順の海岸に生えてゐる。恐らく輸入されたものであらうと考へる。佐藤潤平氏の採集。

13) *Hypochaeris radiata* L., Sp. Pl. (1753) p. 811, REICHENBACH, Ic. Fl. Germ. XIX (1858) t. 1397 , BRITTON and BROWN, l. c. p. 309 f. 4050.

Nom. Jap. BUTA-NA n. n.

Hab. Hondo : Prov. Settsu : mt. Rokko (Jun. 1934 Z. TASHIRO).

六甲山に本草が輸入された。和名のブタナと云ふのは佛蘭西の通俗名 *Salade-de-porc* を譯したのである。歐洲の原産であるが北米にも既に入つてゐる。一體入り込むものは特別にそれに便利な生態的特徴があるのはかゝる事からも推論される。